平成 29 年度
知床におけるエゾシカ捕獲等事業（巻狩）
報告書

平成 30 年 3 月

北海道森林管理局

目次

１．はじめに..... 1
２．事業実施場所..... 1
３．実施工程..... 3
４．実施体制..... 4
　１）実行組織..... 4
　２）捕獲個体受け入れ体制..... 4
　３）事業区域内除雪..... 4
　４）安全対策..... 5
５．誘引および生息状況調査..... 7
　１）遠音別川周辺..... 7
　２）金山川周辺..... 8
　３）オペケプ川周辺..... 9
６．巻き狩りによるエゾシカ捕獲..... 11
　１）金山川周辺での巻き狩り..... 11
　２）遠音別川周辺での巻き狩り..... 13
７．考察..... 15

付録１：現場作業の実施状況・記録写真 .....

１．はじめに

エゾシカの全道的な個体数増加は、世界自然遺産となった知床半島の陸上生態系にも負の影響を与えている。林野庁などは平成 19（2007）年 4 月より「知床半島エゾシカ保護管理計画」を立案し、エゾシカ（以下シカ）の個体数や植生への影響等をモニタリングしつつ、個体数調整を含む手法によりシカの植生に対する影響の軽減を目指している。同計画は 5 か年ごとに計画を見直す順応的管理を行っており、第 1 期（平成 19～23 年）、第 2 期（平成 24～28 年）に引き続き、平成 29（2017）年度より第 3 期計画に取り組んでいる。

当事業の実施地域である斜里町内国有林は同計画における遺産隣接地域にあたる。同地区の一部は可猟区であり、主にコミュニティベースでの個体数調整を促す施策をとってきた。平成 19 年度より狩猟期間の輪採制をとり、平成 25 年度から一般狩猟支援のための林道除雪（林野庁事業）が行われるなど地域の狩猟者との協働が図られている。北海道の狩猟統計では、遠音別および真鯉地区で例年 200 頭前後の狩猟捕獲が報告されている（平成 25 年度狩猟期で 164 頭、平成 26 年度狩猟期で 186 頭）。

狩猟圧が高いことにより、この地域では鳥獣保護区内と比べ警戒心の強いシカが多い。過去 3 年間は林野庁事業でモバイルカリングなど銃による捕獲が実施されている。各事業での捕獲頭数は、平成 26 年度にモバイルカリングで 7 頭、巻き狩りで 27 頭の合計 34 頭、平成 27 年度にモバイルカリングで 0 頭、巻き狩りで 15 頭、遠距離射撃で 4 頭の合計 19 頭、平成 28 年度はモバイルカリングで 6 頭、遠距離狙撃で 6 頭の合計 12 頭であった。本事業は、過年度の事業成果を継承し、巻き狩りによるエゾシカ捕獲を実施した。

２．事業実施場所

以下 3 カ所の事業実施場所について図 1 に示した。

１．遠音別川周辺国有林

林班：網走南部森林管理署 1230 林班

２．オペケプ川周辺国有林

林班：網走南部森林管理署 1301・1302 林班

３．金山川周辺国有林

林班：網走南部森林管理署 1222・1224 林班

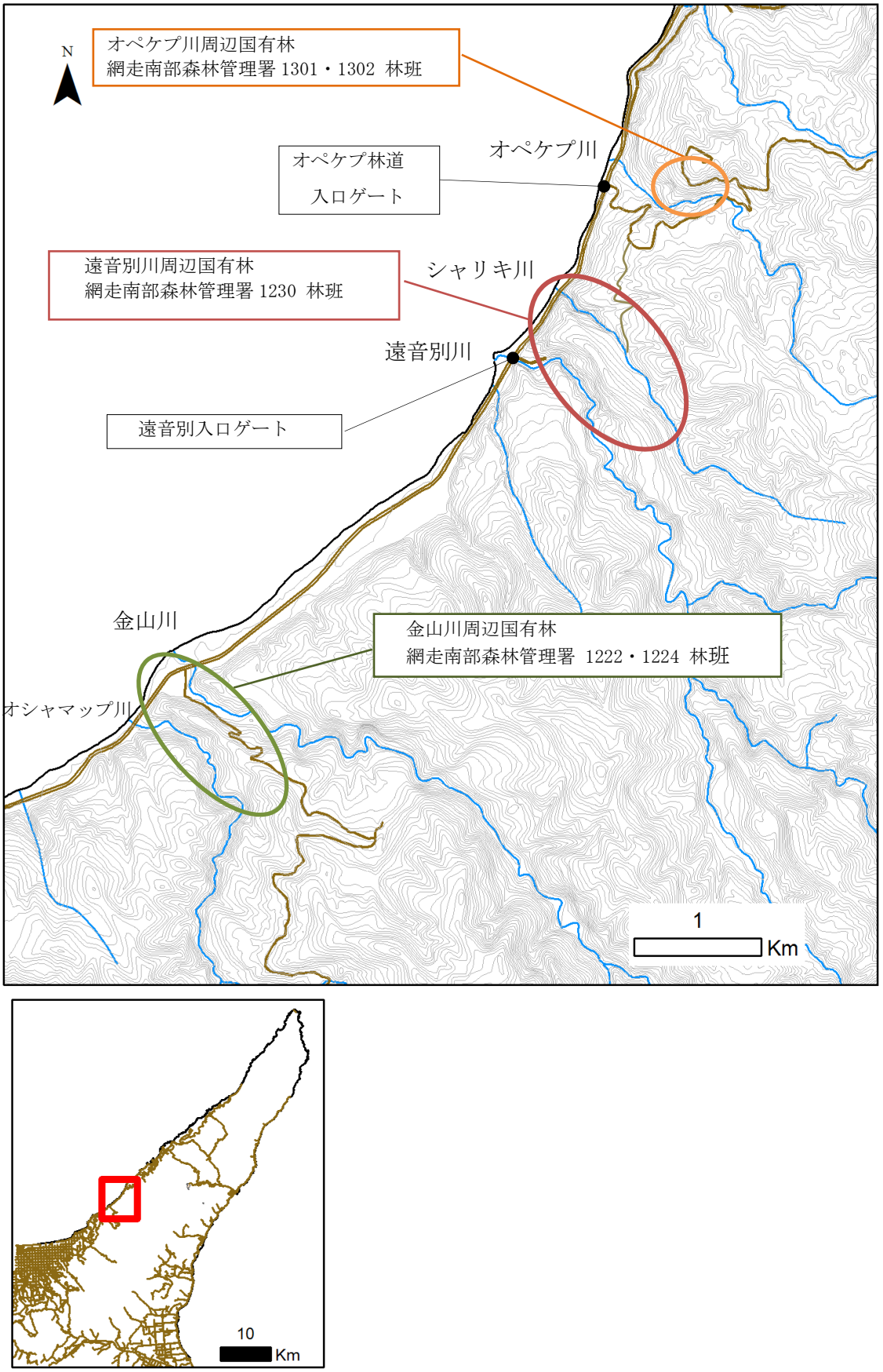

N
オペケプ川周辺国有林
網走南部森林管理署 1301・1302 林班
オペケプ林道
入口ゲート
オペケプ川
遠音別川周辺国有林
網走南部森林管理署 1230 林班
シャリキ川
遠音別川
遠音別入口ゲート
金山川
金山川周辺国有林
網走南部森林管理署 1222・1224 林班
オシャマップ川
1
Km
10
Km

図 1. 位置図

３．実施工程

当事業は、一般狩猟（～2 月 28 日まで）との競合を避けるため、狩猟期間終了後の 3 月より捕獲を開始した。また、冬眠明けのヒグマとの軋轢を避けるため 3 月中旬までに終了する計画とした。図 2 に実施計画を示す。実施内容はシカの誘引状況・天候などにより柔軟に調整した。

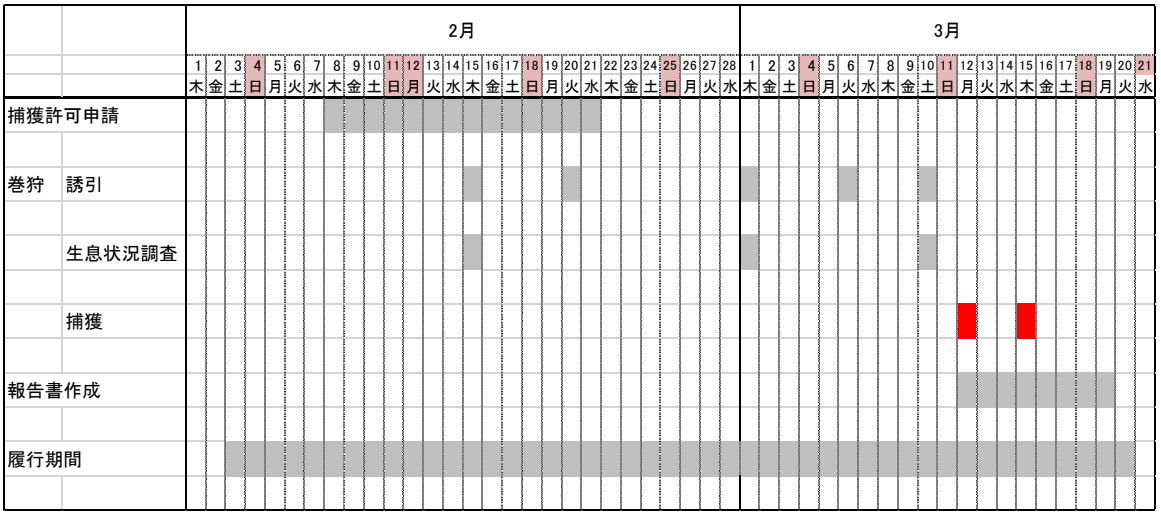


図 2．本事業の実施工程

４．実施体制

１）実行組織

本事業は、北海道森林管理局からの請負事業として公益財団法人 知床財団（以下、知床財団）が実施した。事業の実施にあたり、知床森林生態系保全センターが各種監督を行った。当事業の実施区域は、知床半島エゾシカ管理計画においてコミュニティベースでのシカ捕獲を推進している地域であり、管理捕獲についても地域で活動する狩猟者との協働が重視されている。平成 26 年度に実施したモバイルカリングによる捕獲事業（林野庁事業）では、一般社団法人北海道猟友会斜里支部斜里分会（以下、猟友会斜里分会）が事業請負者であり、平成 27、28 年度は知床財団が事業を請負ったうえで猟友会斜里分会に協力を依頼した。今年度の事業実施についても、地形など現地の状況に精通している従事者を確保することが必要であり、過年度の手法を踏襲することで事業成果の向上につながると考えられたため、過去と同様な協力体制を取り、捕獲作業の射手は、全て猟友会斜里分会の会員より選抜した。作業分担は以下のとおり。

- 知床森林生態系保全センター：捕獲許可申請、一般入林者への危険防止、捕獲作業の開始・終了指示
- 猟友会斜里分会：捕獲作業、捕獲個体の回収・運搬
- 知床財団（事業請負者）：全体調整、現地責任者、作業の安全確保、餌付け・捕獲作業、捕獲個体の回収・運搬、林道除雪

２）捕獲個体受け入れ体制

当事業で捕獲したエゾシカ個体は、斜里町内に活動拠点を持つ利活用施設（有限会社知床ジャニー）に引き渡した。

３）事業区域内除雪

事業期間中に、オペケプ林道外の事業実施区域除雪を 3 回（2 月 14 日、28 日、3 月 10 日）、オシャマップ橋周辺の事業実施区域除雪を 2 回（2 月 14 日、3 月 11 日）実施した。

４）安全対策

一般入林者等への安全対策

一般入林者への危険防止及び捕獲対象のシカを攪乱することを防止するため、捕獲作業前に関係者以外の立ち入りを禁止するなどの措置を講じた。

- 林道入口に案内看板を設置し、捕獲実施日について事前周知を行った（写真 1、2）。
- 捕獲実施中は、林道入口のゲート付近に監視員を巡回させ、関係者以外の立ち入りを制限した。
- 関係者以外の立ち入りが認められた場合は、監視員からの指示により捕獲を中断する体制を取った。

写真 1．遠音別林道入口ゲートに設置した看板

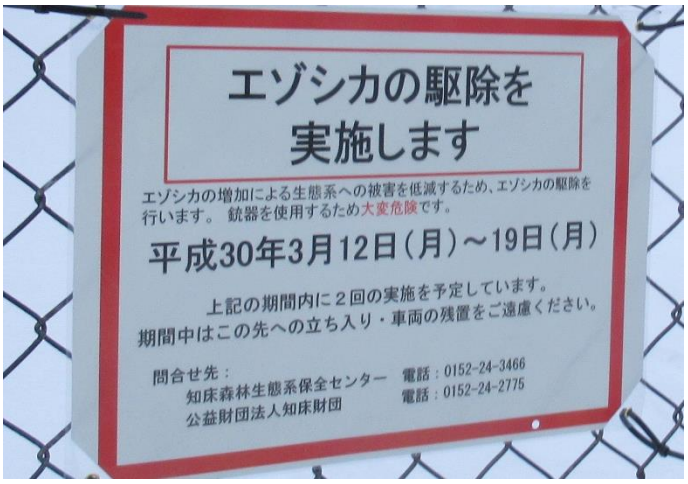


写真 2．オペケプ林道入口ゲートに設置した周知看板

捕獲作業時の安全対策

捕獲作業の直前には捕獲従事者が集合し（写真 3）、以下の安全対策の確認・徹底を行った。

- 実包の装填と脱包は必ず野外で行うこと。
- 捕獲の際、射撃しない時は必ず脱包し、実包の装填は射撃の直前まで行わないこと。
- 射撃時は必ず安土を確認すること。
- 吹雪による視界不良など危険が伴う場合は捕獲を中断すること。

写真 3．捕獲実施直前の打ち合わせ（3 月 15 日）

５．誘引および生息状況調査

巻き狩り対象地周辺で、シカ生息状況調査及びシカの滞留を促すための餌まきを 2 月から 3 月にかけて行った。誘引のための餌は、ルーサンヘイベールを用いた。各対象地の状況を示す。

１）遠音別川周辺

餌まきは 2 月 15 日、3 月 6 日に行った。2 月 15 日には、巻き狩り対象地を広範囲に踏査し、生息状況を調査した。対象地は前日の 2 月 14 日まで休猟期間となっており、この日の調査は概ね狩猟圧がかからない状態での生息状況を参照していると考えられる。図 3 に、踏査ルートを赤線で、シカの痕跡を確認した場所を旗マークで示した。1 日以内の痕跡は 2 カ所程度で、それ以外は 1 週間以内程度の古さであった。いずれも数頭あるいは小規模の群れのもので、滞留している状態ではなかった。踏査中に 4 群 14 頭のシカを目視したが、全ての目撃は、対象地より山側の送電線下を通過するシカであった。この日の踏査ルートの積雪は概ね 70 cm弱であった（写真 4）。近隣の気象観測地（ウトロ）の 2 月の積雪深の平年値は 104 cmであり、例年より積雪が少ない状態と言える。林内では倒木・落枝に採食痕が多数見られたことから、シカは海岸近くの斜面を利用する段階に至っておらず、山側の森林内で活動している印象を受けた。

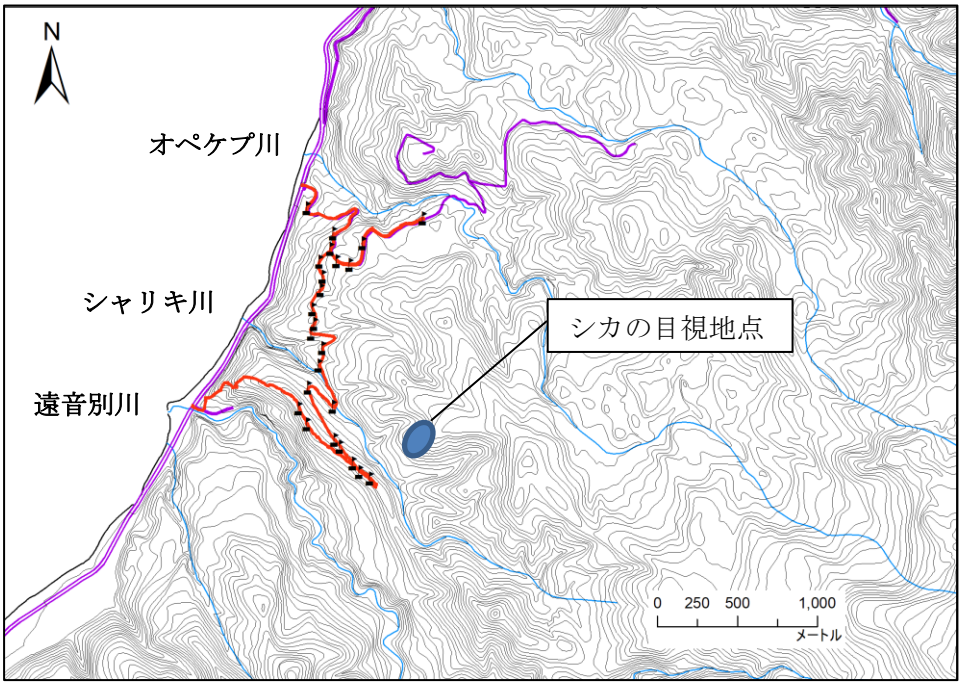


図 3．遠音別川周辺の踏査ルートおよびシカの痕跡・目視地点（2 月 15 日）

写真 4．オペケプ林道での積雪深（2 月 15 日）

２）金山川周辺

餌まきは 2 月 20 日、3 月 6 日、3 月 10 日に行った。3 月 10 日には、巻き狩り対象地を広範囲に踏査し、生息状況を調査した。知床地域では 3 月 9 日に気温上昇と降雨があり、融雪が一気に進んだ。対象地でも雪が無くなり地表が現れている斜面が多くみられた（写真 5）。尾根沿いの林内には、倒木や落枝などへの採食痕が多数あり、明瞭なシカ道も確認できた。踏査中にオシャマップ川を渡渉する 20 頭程度のシカの群れを目視した。この群れは調査員に反応して移動したと考えられたので、シカの攪乱を最小限とするために、その後予定していた海側の踏査は行わなかった。

写真 5．融雪が進んだ林道横の斜面（3 月 10 日　金山川林道）

写真 6. 巻き狩り対象地のシカ道（3 月 10 日　金山川周辺）

なお金山川林道では、当事業以外に箱わなによるエゾシカ捕獲（林野庁事業）が行われており、餌付け誘引作業が別途行われていた。当該事業実施者から聞き取った情報では、箱わなに誘引されているシカの群れは主に金山川の右岸から川を渡渉して箱わなにアクセスしており、巻き狩り対象地の尾根を利用しているシカはオシャマップ川方面に生息している別群である可能性が高いとのことであった。

３）オペケプ川周辺

餌まきは 3 月 1、10 日に行った。3 月 10 日には、巻き狩り対象地を広範囲に踏査し、生息状況を調査した。踏査中にシカの目視は無かったが、林道沿いなどの日当たりのいい斜面に、多くの足跡を確認した。シカは融雪が進んだ斜面で、枯れ草などを頻繁に採食していると考えられた（写真 7，8）。

写真 7. 日当たりのいい斜面で認められたシカの足跡

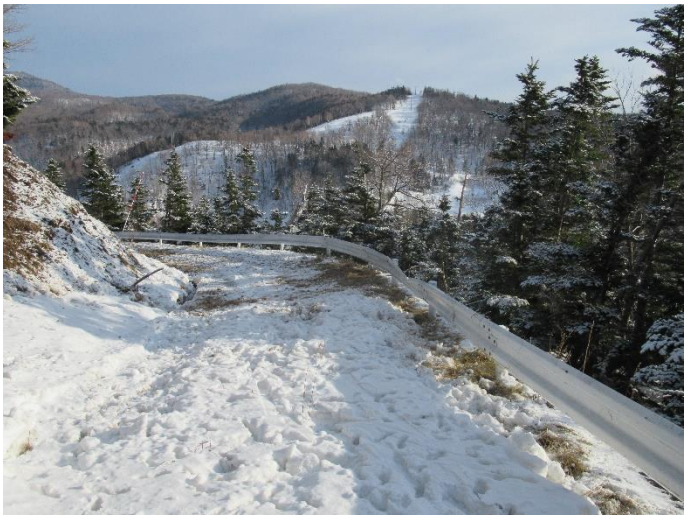


写真 8. 融雪が進み、のり面の枯れ草が表出した林道

６． 巻き狩りによるエゾシカ捕獲

巻き狩りによるエゾシカ捕獲を 2 回実施した。巻き狩りを実施すると、しばらくの間シカはその場所を忌避することが予想されるため、実施場所は 1 回目と 2 回目で十分に離れた別エリアで行うよう計画した。作業時の意思疎通のために、作業者全員分の業務無線機を手配し、使用した。また、シカの捕獲個体の搬出を円滑に行うため、スノーモービル 2 台を使用した（写真 9）。

写真 9．スノーモービルと回収したシカ

１）金山川周辺での巻き狩り

実施日　　3 月 12 日
人員　　18 名（射手 13 名、連絡調整員 1 名、ゲート管理 2 名、林野庁職員 2 名）
捕獲頭数　　3 頭（メス成獣 2 頭、0 歳メス 1 頭）
実施方法　　金山川及び隣接するオシャマップ川の両河川沿いに射手を配置し、勢子が稜線沿いからシカを沢に向かって追い出す形で実施した（図 4）。

8:00　集合
　　事業趣旨説明
　　安全上の確認事項説明
　　巻き狩り配置確認
　　無線分配
8:30　勢子、待ちが各配置に展開開始
8:50　勢子スタート、捕獲開始

9:40　捕獲終了

10:30　捕獲個体回収、解散

概況

シカを対象地から逃がさないため、スノーモービルを利用して勢子を迅速に配置した。射手の展開と同時に、尾根の稜線上を移動する 10 頭弱のシカが目視された。巻き狩り対象地にいたシカはこの 10 頭程度と考えられ、これらのシカを勢子が追い戻し、待ちの射撃範囲に入った数頭について捕獲することができた。捕獲したシカは全て回収し利活用施設へ受け渡した。

勢子のスタートラインより山側のエリアをスノーモービル探索した情報によると、より多くのシカが山側で目視された。例年 3 月にはシカは海岸近くの斜面を利用するが、少雪によりその段階に至っておらず、山側の森林内で活動している印象を受けた。

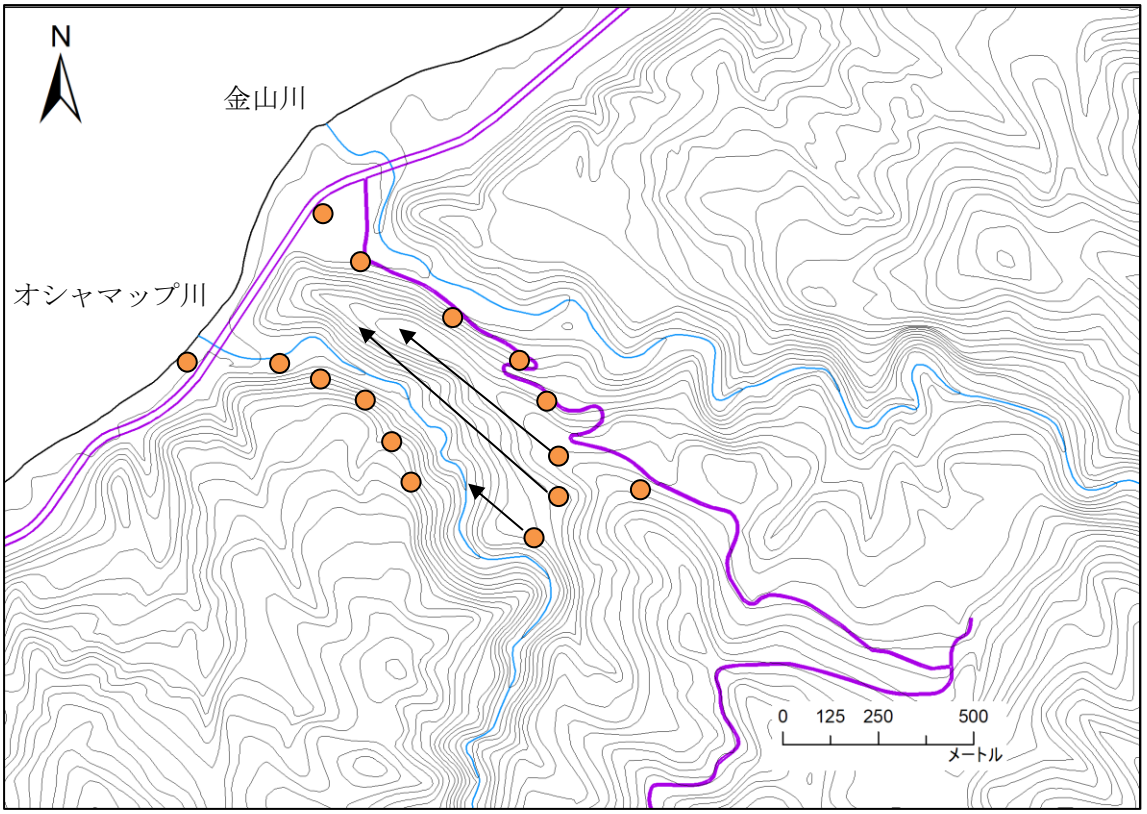


図 4．金山川周辺　巻き狩り捕獲　配置図（●がメンバーの配置位置）

矢印は勢子の進行方向

２）遠音別川周辺での巻き狩り

実施日　　3 月 15 日

人員　　19 名（射手 15 名、連絡調整員 1 名、ゲート管理 1 名、林野庁職員 2 名）

捕獲頭数　　4 頭（メス成獣 1 頭、オス成獣 3 頭）

実施方法　　遠音別川及び隣接するシャリキ川の両河川沿いに射手を配置し、勢子が稜線沿いからシカを沢に向かって追い出す形で実施した（図 5、写真 10）。

8:30　集合
　　事業趣旨説明
　　安全上の確認事項説明
　　巻き狩り配置確認
　　無線分配
9:00　勢子、待ちが各配置に展開開始
9:50　勢子スタート、捕獲開始
10:40　捕獲終了
11:20　捕獲個体回収、解散

概況

天候は曇りだが風が強いため、シカは採食場所には出現せず、ねぐらに留まっていると判断。採食場所が巻き狩り対象地となっているオペケプ川周辺は断念し、シカのねぐらとなる針葉樹林を含む遠音別川周辺での実施とした。シカの目視は、対象地外のエリア（遠音別川対岸）に 20 頭程度、勢子による目視が 10 頭程度であった。捕獲した 4 頭のうち 2 頭は勢子が捕獲した。捕獲したシカのうち 2 頭は崖下に落ちたため回収できなかった。2 頭（メス成獣 1、オス成獣 1）は回収し利活用施設へ受け渡した。金山川周辺での 1 回目同様、スノーモービルで周辺を探索したところ、より多くのシカが対象地より山側で目視された。少雪により生息地が例年の同時期より山側にシフトしていると考えられた。

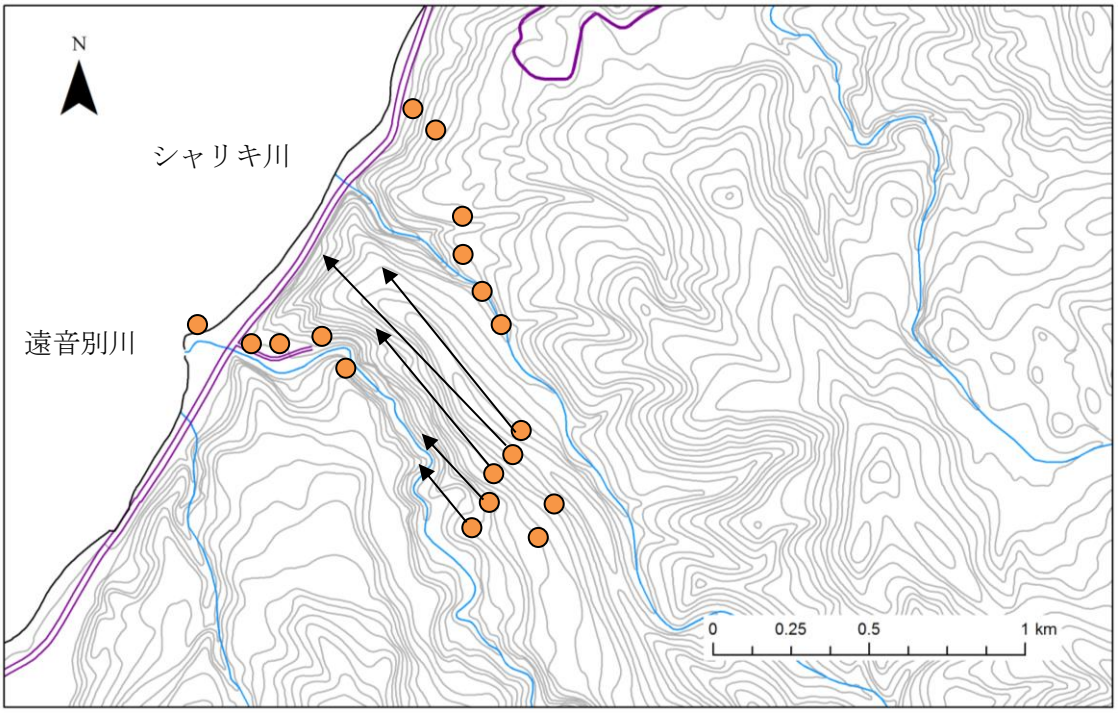


図 5．遠音別川周辺　巻き狩り捕獲　配置図（●がメンバーの配置位置）
矢印は勢子の進行方向

写真 10．捕獲・回収したシカと猟友会員

７．考察

当事業におけるシカ捕獲頭数は計７頭（メス成獣３頭、オス成獣３頭、０才メス１頭）であった。捕獲手法として用いた巻き狩りは、一般狩猟において定番となっており、射手を担った猟友会員にとっては親和性の高い手法である。特に今回実施した金山川周辺および遠音別川周辺は、猟友会斜里分会が例年狩猟期間中に巻き狩りを実施している場所であったため、各射手は地形等状況を十分把握しており、スムーズに作業を進めることができた。

過年度も含めた遺産隣接地域における銃による管理捕獲での捕獲頭数は表１の通りで、4年間で72頭を捕獲している。3種類の捕獲手法のうち、巻き狩りが最も多くのシカを捕獲している。また、捕獲効率を射手出動１回当たりの捕獲数で比較すると、巻き狩りが最も高いが、3回の実施で効率は低下しつつある。シカのスマート化を考慮した継続性の面では少人数射手での管理捕獲にメリットがあると言われており、低密度化が進みつつある今後の手法としては検討の余地がある。ただし、コミュニティベースでの個体数調整は、趣味で狩猟を行っている地域の狩猟者を担い手とするため、手法の選定には捕獲効率以外の要素も重要となる。少人数射手の場合は必然的に事業に参加する射手が限定されるため、事業に参加しない他の猟友会員に不公平感を生む恐れがある。また今後低密度化が進めば、一般狩猟の機会減少を危惧する声も上がるかもしれない。趣味で狩猟を楽しむ立場からの適正なシカの生息密度は、植生の回復に必要なシカの生息密度とは異なっていることが予想され、管理捕獲の目標設定についても今後議論が必要になる可能性もある。地域の狩猟者との協働のためには、慎重な調整を継続する必要がある。巻き狩りは多くの狩猟者が参加できる手法であるため、協働事業として継続しやすいという面では、有効な手法だと言える。

表１．遺産隣接地域の管理捕獲（銃）による捕獲頭数

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	合計
モバイルカリング	7(5)	0	6(3)	—	13(8)
遠距離狙撃	—	4(2)	6(4)	—	10(6)
巻き狩り	27(19)	15(10)	—	7(3)	49(32)
合計	34(24)	19(12)	12(7)	7(3)	72(46)

＊（）内はメス成獣の捕獲頭数

表 2. 遺産隣接地域の管理捕獲（銃）における捕獲効率

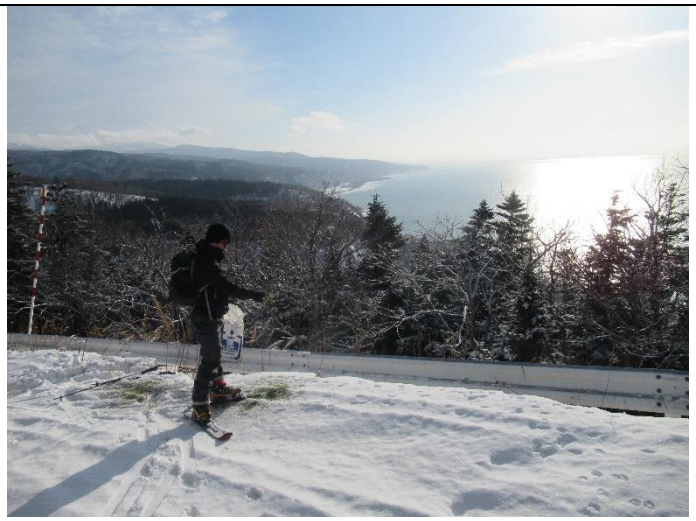
		H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	合計
モバイルカリング	捕獲頭数	7	0	6	—	13
	出動射手数	8	8	10	—	26
	捕獲効率	0.88	0.00	0.60	—	0.50
遠距離狙撃	捕獲頭数	—	4	6	—	10
	出動射手数	—	12	16	—	28
	捕獲効率	—	0.33	0.38	—	0.36
巻き狩り	捕獲頭数	27	15	—	7	49
	出動射手数	18	15	—	28	61
	捕獲効率	1.50	1.00	—	0.25	0.80

＊捕獲効率＝（捕獲頭数）/（出動射手数）

付録１：現場作業の実施状況・記録写真

平成 30(2018)年 2 月 15 日(木) 9：00 － 13:30 計 2 名	 オペケプ林道から遠音別川に向けてシカの生息域調査。 巻き狩り予定の尾根で餌まき。 積雪深の調査。
平成 30(2018)年 2 月 20 日(火) 10:00 － 11:30 計 4 名	 金山川周辺にてシカの生息状況調査および餌まき。

平成 30(2018)年 3 月 1 日(木) 10:00 － 11:30 計 2 名	 オペケプ林道周辺の餌まき。 林道の除雪状況確認。
平成 30(2018)年 3 月 6 日(火) 15:00 － 17:30 計 2 名	 金山川周辺、遠音別川周辺で餌まき。 巻き狩り実施エリアの林道入口 4 か所に注意喚起看板を設置。

平成 30(2018)年 3 月 10 日(土) 11:00 － 17:30 計 2 名	 金山川周辺の生息状況調査と餌まき。 オペケプ巻き狩り予定地の生息状況調査と餌まき。
平成 30(2018)年 3 月 12 日(月) 8:00 － 10:30 計 16 名 +林野庁職員 2 名	 第 1 回目の巻き狩りを金山川周辺で実施した。 捕獲したエゾシカはメス成獣 2 頭、0 歳（メス）1 頭の計 3 頭。 3 頭を利活用施設へ受け渡す。

平成 30(2018)年 3 月 15 日(木) 8:30 － 11:30 計 17 名 +林野庁職員 2 名	 第 2 回目の巻き狩りを遠音別川周辺で実施。 捕獲したエゾシカはメス成獣 1 頭、オス成獣 3 頭の計 4 頭。うち 2 頭は崖下に落ちたため回収できず。残り 2 頭は回収し利活用施設へ受け渡し。

林野庁　北海道森林管理局

事業名：　平成 29 年度知床におけるエゾシカ捕獲等事業（巻狩）

事業期間：　平成 30（2018）年 2 月 3 日-平成 30（2018）年 3 月 20 日

事業実施者：　公益財団法人 知床財団

〒099-4356　北海道斜里郡斜里町岩宇別 531

TEL：0152-24-2114